

# 子ども達にも 認知症を正しく理解 してもらいたい…



鳳在宅介護支援センターケアマネによる講義



## の願いを託して

# 小中学校の出前授業に参加

認知症キャラバンメイトという活動をご存知でしょうか？地域で暮らす認知症の人やその家族を応援する「認知症サポーター」を養成するための講師役です。鳳在宅介護支援センターでは、地域活動の一環として5年前から地域の民生委員と共に、「キッズサポーター」養成の授業（小・中学校への出前授業）に参加しています。大人だけではなく、子どもにも認知症のことを正しく理解してもらう、正しく接することができる人を増やすことが目的です。

## 紙芝居や寸劇もまじえて 楽しく学習できるように工夫

特別なことをするのはありません。認知症は病気であること、誰でも認知症になる可能性があることを知り、優しく接するだけいいのです。認知症の方への正しい接し方を学ぶことで、いろいろな病気、障がいについての理解が深まり、優しく接することができると言われています。また、子ども達自身が学んだことを親に話すことで、大人も認知症のことを理解するといった波及効果もあるよ

うです。元気づけに見えても、困っているというのかわからない人が地域にどれだけいるでしょうか。だからこそ、医療や福祉、家族、そして地域の人々の支えが必要です。認知症介護は、介護保険サービスだけではまかないきれないこと

## 認知症キッズサポーターの主な内容

- 認知症にまつわるクイズ
- 紙芝居 「認知症ってなあに？」
- 脳の働き 「記憶の壺」  
ボールを使用し、楽しみながら学ぶ
- 紙芝居
- 寸劇 学校の先生や子どもも参加しての会話劇
- 修了証 オレンジリング授与

## 理事会報告

### 2月度理事会（概要）

2月23日（木）午後7時から理事30名の出席で2016年度：第17回理事会が同仁会本部3階で開催されました。理事長挨拶のあと、専務より会務報告、その他友の会活動等の報告が行われ、出席理事全員が報告及び協議事項について承認しました。

### ＜主な内容＞

- ①友の会活動と健康づくりについて
- ②健康友の会みはら「ふれあい・支えあい」活動の報告、

### 地域交流ゾーン運営委員会

- ② 「寄附行為」の改定
- ③ 1月度経営結果と協同基金の到達と課題  
1月は、予算比で超過達成、前年比も改善。
- ④ 評議員の離任、変更及び3月28日の評議員会
- ⑤ 同仁会本部・耳原歯科診療所のお披露目式、ヘルパーステーション老松、介護保険事業部、訪問看護ステーション、結の会ともつず（配食サービス）の移設
- ⑥ その他  
2月度社保平和委員会活動、政治の革新に関する今後の取り組みについて

が、たくさんありますが、鳳在宅介護支援センターでは地域の人たちと一緒に学び、認知症の方をはじめ、高齢者が安心して在宅生活を送れるよう、相談援助の活動に取り組んでいます。  
(鳳在宅介護支援センター)

## 連載

# 耳原総合病院建替え事業 にみる協同の思想

立命館大学産業社会学部教授  
都市社会学者・同仁会理事  
リム・ボン

## 6. 外観イメージ

(前号よりつづき)  
第三に、ミュージアムとは何か。それは過去の遺物を展示するだけの場であってはいけない。過去を忘れず、その記憶を未来への教訓として活かす。常に考えることを止めない、そのための弛まない努力を實踐する場である。耳原はそのシンボルであり、正にミュージアムとしての機能を発揮するのである。

この時期、筆者は海外のミュージアムを数多く視察していた。とりわけニューヨークの現代美術館（MOMA）は示唆に富んでいた。資料や芸術作品を展示するのはミュージアムの重要な機能であるが、それだけではない。むしろ、そのミュージアムの趣旨に適ったテーマを検証するための調査研究を常に実施し、時代のニーズを先取りする。これこそがミュージアムに求められる本質的な機能である。耳原総合病院も同様である。人々の命と暮らしに関わる時代的ニーズと常に正面から向き合わなければならない。筆者が行った問題提起「命と暮らしのミュージアム」は、耳原総合病院の中にミュージアムを附置させようというものではなく、耳原総合病院の存在そのものがミュージアムとしての機能を有するようにつとめていくものである。

